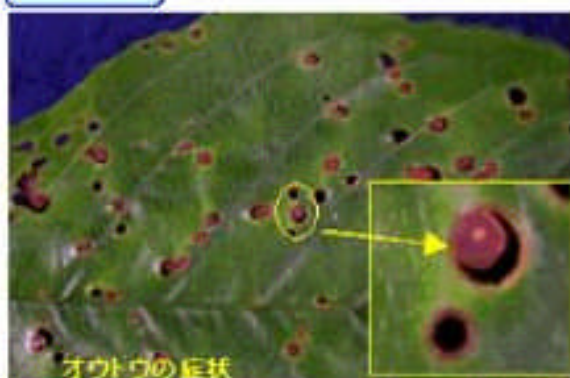


オウトウ、ウメなどの葉や果実に春発生する斑点の正体

農林総合研究センターりんご試験場

これまで「灰星病」は花腐れや果実の軟化腐敗を起こすことが知られていますが、昨年5月中旬にオウトウ、ウメ、アンズの葉やウメ、アンズの果実に見られた赤褐色の斑点から「灰星病」の菌が分離され、これらが「灰星病」の一症状であることがわかりました。今後、このような症状が見られる園地では灰星病防除を徹底する必要があります。

葉の症状



オウトウの症状

- オウトウ
 時期 落花期頃から
 症状 葉上に0.5～2.0mmの赤褐色斑点
 斑点の中央部に灰白色の斑点を伴うものもある
 葉が大きくなるに伴い穴があく（写真の矢印部分）
 区別 症状の似ている「褐色せん孔病」は収穫期以降に多く発生し、黄変落葉する点異なる



ウメの症状

- ウメ、アンズ
 時期 落花10日後頃から
 症状 葉上に0.1～2.0mmの赤褐色斑点
 斑点の中央部に0.1～0.5mmの灰白色～黒褐色の斑点を伴うことがある
 葉が大きくなるに伴い穴があく

果実の症状



ウメの症状



アンズの症状

- 時期 落花10日後頃から
 症状 果実表面に0.1～1.5mmの赤褐色斑点
 斑点の中央部に0.1～0.5mmの灰白色～黒褐色の斑点を伴うことがある
 表面は平滑～やや凸状で、かさぶた状となるものもある（矢印部分）

防除対策

オウトウでは「開花直前」と「満開5日後」、ウメ、アンズでは「落花直後」の灰星病防除を徹底します



お問い合わせ

↑ 伝染源を取り除きます

りんご試験場県南果樹研究センターまで (Tel.0178-62-4111)